

## 8月に向けて

代表取締役 三田雅憲

暑さが厳しい日が続きますが、皆様はいかがお過ごしですか？

今月は「叱りの達人協会」の代表である河村晴美さんの連載から切り抜き記事をご紹介します。

「会社を良くしたい。良い方向に変えていきたい」と思ったとき、社内システムの刷新やDX化広告を打ったりと、とかく新しい取り組みを導入しがちです。しかし、そんなことは二の次三の次なのです。職場で社員同志のお互いへのリスペクト(尊敬や尊重)の言葉「いつもありがとうね」が増えると、職場全体に思いやりと気遣いの行動が増えます。社長あるいは上司である管理職が、社員さんたちの良いところを見つけて、ねぎらの言葉をかける事で、今まで不満や不機嫌、不信感でギスギスしていた会話が明るく楽しく変化していきます。この変化を社外のお客様も感じ取って「貴社へ発注したい」と取引先が増えていきます。私がお世話している企業様にも、こうした事例は枚挙にいとまがありません。又、コロナ禍で日本のみならず、世界中であらゆる活動に制限がかかりました。しかし、興味深いのはコロナ禍で事業が立ち行かなくなった会社がある一方で、社員が一丸となって新しい事業を立ち上げたり、営業を新しく伸ばしたりして、今まで以上の売り上げを伸ばした会社もあります。この違いは何でしょうか？生き延びる法人や個人は物事の結果を他責にしません。道を切り拓く人は、必ず自責思考(※1)の持ち主です。事実をポジティブとネガティブの両面から冷静に見つめることで偏らないようにするのは、良いことがあれば「周囲のおかげだ」と感謝し、予想と違うことが起きれば「何のサインなのだろう？」と分析することで、どんなことが起きても自分は大丈夫だと信じることができます。

と述べられています。(※1 自責思考とは-何か物事が起きた際に自分自身に問題があると捉える、とらえ、とうじしゃ当事者意識が強く、又責任感もあり学習能力が高い人の考え方です。)逆に他責思考とは何か物事が起きた際に自分以外、他人や周りに問題があるという考え方です。他責思考の人は責任感も薄い為、当事者意識も弱く同じミスを繰り返します。

7月にはFCティアモ枚方で営業担当と奈良県生駒市で社会人サッカークラブの代表を務めるN氏とお話する機会がありました。少子化の影響やクラブ運営の厳しい状況などをお聞きしましたが、それでも前向きで地域貢献の為に行政や、医療機関等に足を運んで少しでも取り巻く方々が、良くなってほしいという利他の精神で、頑張っておられる様子に大変感激をしました。(この方もとても自責思考が強い方であると思いました。)地域のスポーツの振興を少しでも協力するということは、簡単なことではありません。やり続けなければならないので大変な側面もあります。そういう中でも当社としては、FCティアモ枚方と王仁公園テニスコートの振興に関しては、少しでも協力していきますので、社員の理解をよろしく願います。

8月1日より、キャリア採用させていただきましたK君が合流してくれます。新しい会社の仲間として迎え入れをください。よろしく願います。

8月にはお盆休みが待っていますが、それまではしっかりと納品と品質を担保した製品を出せるように願います。